

山形県海面利用協議会議事要点

1 開催日時、場所 平成25年2月21日(木) 13:30~16:15

いこいの村庄内 大ホール平安の間

2 出席者委員数 17名(委員19名中)

3 議 事

報告事項

(1) 平成24年度ハタハタの採捕規制に係る山形海区漁業調整委員会指示の発動結果について

・巡回指導、取締結果等

漁業者：・10日間で約8千人の遊漁者ということだが、その推定方法は？

・漁業より少ないとはいえ、10日間で31トンは多い。せっかく産卵に来たハタハタを獲れば資源が減少する。遊漁者にバケツ1杯までとの資源保護を訴えてはどうか。

事務局：・遊漁者数の推定方法は、巡回時に全遊漁者数を数え、その2倍の数を1日の遊漁者数としている。

・以前のように獲れるだけ獲るという雰囲気はなく、最近はクーラー1杯獲ったら帰るというように、遊漁者も落ち着いてきているように感じる。

(2) 平成25年度火光を利用した遊漁に係る光力制限に係る山形海区漁業調整委員会指示の発動について

発言なし。

協議事項

(1) 曳釣りにについて

漁業者：・曳釣りは魚種によって曳く速度が異なるので、何ノットと決めるのは難しい。

(動力の問題など、曖昧な定義をするのであれば、何ノット以上で曳いてはいけないと、具体的な数字を決めてはどうか。との<学識者>の意見に答えて)

・速力を制限しても、遊漁者がこの速力ならいいんだと漁業者が操業している中に入ってくると操業の邪魔になるし、とても危険な行為だ。

・遊漁者が、漁業者が操業している中に入って、縄を切るなどの被害も出ている。

・安全が確保されていないこと、規則が不明瞭なことなど、問題がありすぎるので、もう少し整理してから検討した方がいい。

・40年以上曳釣りをしているが、何度も危険な目にあった。曳釣りは非常に危険なものであり、その危険性を認識していない人が、簡単にやらせてほしいというような漁法ではない。

・自由化になれば魚のいるところにたくさんの船が集まってくる。

・曳釣り漁業者の邪魔をしないといっても、その周辺にははえ縄やさし網があり、その漁具を破壊する可能性もある。破壊された漁具は、誰が補償するのか。

・漁業者にとっても曳釣りは危険だし、それほど魅力のある漁法ではない。

・サクラマス曳釣りなどは、遊漁者から見れば魅力的かもしれないが、70代を超えた漁業者がやっている所に遊漁者が入っては非常に危ない。事故が起きたら人命に関わるということを認識してほしい。

・漁船からは小さいプレジャーボートは見えにくい。曳釣りをしている中をプレジャーボートが走って、人間に針が掛かったら大変なことになる。

・去年はマグロが少なかったが、21、22年度は漁具がぶつかったり、船が接触したりと事故も多かった。危険だからと曳釣りを辞める漁業者もいる。

・それらのことを考えた上で、今後この話に取り組んでもらいたい。

・長年この話をしてきたが、曳釣りを認めてもらいたいのであれば、区域や時間など、具体的な要望を出してもらわなければ話し合いが進まない。

遊漁者：・一部の設備のいい船を持っている人達が、マグロなどのトロリングをしたいと要望しているが、ほとんどの船は沿岸でジギングをやって楽しんでいる。一部の金持ちと一緒にされては困る。

・沿岸での曳釣りは大変危険なものと認識している。個人的な意見だが、曳釣りは全面禁止といった強い態度で臨むべきだ。

- ・個人的にはトローリングの危険性など漁業者が妥協できないのであれば、禁止でいいと思うが、ヨットなどの観光面について、もう少し全体の将来像を考えて議論すべきだ。
- ・地区協議会でも話が出たように、どうしても曳釣りがやりたいのであれば組合員になってやればいい。

学識者：・海面漁業調整規則第43条には竿釣り及び手釣りはいいと書かれている。この文面であれば、竿を立ててリールで引っ張る形式であればトローリングも認められるのではないかと。禁止ならば、明確に曳釣りは禁止という文言を調整規則に加えた方がいい。

- ・漁業者の言う曳釣りと、遊漁者の言うトローリングはニュアンスが違う。釣りはスポーツであり、ルールとマナーを守って行うトローリングには、それほど危険性がない。時間や区域の制限などを設けて、最小限やらせてほしい。
- ・漁業者の言う曳釣りの危険性は理解できるが、遊漁者のトローリングは操船者は操船専門、釣りは釣り人が行うので、漁具の破壊などの危険性はないと思う。

海レク：・ヨットは長い航海の間に、自分たちの賄いを獲るため曳釣りをすることがある。酒田に寄港した全国の人達が取締りを受けたとなると、その情報は全国に流れ、観光などにも悪影響がある。

・曳釣りはほぼ全国で禁止されているようだが、仲間から取締りを受けたと聞いたことはない。航海の間の賄いとして、竿1本で釣る分は認めてほしい。

(2) その他

- 漁業者：・遊漁者はどんどん新しい道具を使って大瀬周辺に集まり、漁場を荒らしている。
- ・資源保護のためには明石礁、大瀬という沿岸の2大漁場は守らなければいけない。
 - ・港湾工事のために天然の磯場を潰していると言われたが、安全安心な港作りのために行っていることで、港が整備されれば遊漁者のためにもなる。遊漁者が一方的に不利益を被っているわけではない。

(港湾工事などで、天然の磯場が減少し、釣り人が不利益を被っている。できるだけ自然の磯を残してほしい。との<学識者>の意見に答えて)

- ・事故が起きたときのために、プレジャーボート全船に保険に入ってもらいたい。また、小型船舶安全協会は会員に対して保険に入るよう指導してほしい。

遊漁者：・明石礁、大瀬について、時間や区域を限定して一部開放してほしい。

- ・酒田沖の人工魚礁だが、砂に埋まるなどして、魚探に反応が出ないポイントもある。遊漁者のために人工魚礁を入れてもらえないか。
- ・鶴岡小型船舶安全協会では、総会で保険の担当者に来てもらい説明会を開催している。今後は、保険加入者が増えるのではないかと。
- ・明石礁、大瀬での検挙者数を何かの形で公表してほしい。

事務局：・人工魚礁は資源を増やす目的で漁業者のために行っている事業であり、今のところ遊漁者のために人工魚礁を入れるという考えはない。しかし、人工魚礁を入れることで魚が増えれば、結果的に遊漁者の利益にもなると考えている。

その他

漁業者：・6月頃のたい縄最盛期の早朝は濃霧が出ることが多い。操業を終えて帰港する時にメバル釣りに向かう遊漁者が全速で走って来るので、我々は何度も怖い思いをしている。

- ・レーダーも活用して、安全速力で航行してほしい。

遊漁者：・16ノットの船であれば10ノット程度に減速している。レーダーだけでなく、自分の目でも確認するようにしている。

事務局：・お互いに事故がないよう、その時の条件に合わせ安全に航行するようにしてほしい。

以上

平成24年度山形県海面利用協議会 出欠名簿 (H25. 2. 21)

任期：平成24年6月1日～平成26年5月31日（2年間）

氏 名		主 な 役 職	選任区分	出欠
山本 益生	やまもと ますお	鶴岡市 副市長	学識経験者	出席
富山 まさ江	とみやま まさえ	公益財団法人 日本釣振興会 山形県支部 事務局	学識経験者	欠席
佐藤 廣之	さとう ひろゆき	鼠ヶ関マリーナ ハーバーマスター	学識経験者	欠席
加藤 政敏	かとう まさとし	釣具店経営	学識経験者	出席
伊原 光臣	いはら みつおみ	山形県漁業協同組合 理事	漁業者代表	出席
池田 幸一郎	いけだ こういちろう	山形県漁業協同組合 理事	漁業者代表	出席
渡部 伸二	わたなべ しんじ	山形県漁業協同組合 総代	漁業者代表	出席
佐藤 峯男	さとう みねお	山形県漁業協同組合 理事	漁業者代表	出席
本間 満	ほんま みつる	山形県漁業協同組合 理事	漁業者代表	出席
赤塚 信子	あかつか のぶこ	山形県漁協女性部 副部長	漁業者代表	出席
齋藤 賢作	さいとう けんさく	山形県小型船舶安全協会 会長 鶴岡小型船舶安全協会 会長	遊漁者代表	出席
宗 雄司	そう ゆうじ	酒田小型船舶安全協会 会長	遊漁者代表	出席
池田 栄	いけだ さかえ	遊佐小型船舶安全協会 会長	遊漁者代表	出席
朝比奈 昇	あさひな のぼる	遊漁船協同組合 理事長	遊漁者代表	出席
五十嵐 博	いがらし ひろし	山形県庄内遊漁船協会 副会長	遊漁者代表	出席
後藤 憲二 (代理 大滝利勝)	ごとう けんじ おおたき としかつ	山形県セイリング連盟 副会長 酒田市ヨット連盟 会長 酒田市ヨット連盟 副会長	海レク代表	出席
相星 克文	あいほし よしふみ	山形県潜水協議会 会長	海レク代表	出席
樫尾 浩司	かしお こうじ	東北運輸局山形運輸支局 次長	国の関係行政 機関	出席
成田 幸司	なりた こうじ	酒田海上保安部 警備救難課長	国の関係行政 機関	出席

委員19名（うち出席17名）

臨席者

氏 名	主 な 役 職
加藤 栄	山形海区漁業調整委員会 会長
鈴木 重作	山形海区漁業調整委員会 委員
本間 直光	山形海区漁業調整委員会 委員
大淵 敬三	山形県漁業協同組合総務部漁政対策室 係長
佐藤 泰徳	酒田市農林水産部農林水産課 課長補佐兼水産林務係長
佐藤 洋	山形県水産試験場 副場長
阿部 信彦	山形海区漁業調整委員会事務局 海区漁業調整専門員

臨席者7名

事務局

氏 名	主 な 役 職
井口 雅陽	山形県庄内総合支庁水産課 課長
阿部 幸	山形県庄内総合支庁水産課 課長補佐（漁業調整担当）
長谷川 慎一	山形県庄内総合支庁水産課 漁業調整主査
菅原 雅直	山形県庄内総合支庁水産課 月峯船長
齋藤 勝三	山形県庄内総合支庁水産課 機関長
佐藤 孝浩	山形県庄内総合支庁水産課 主任専門機関士
前田 恵美	山形県庄内総合支庁水産課 航海士
板垣 光太	山形県庄内総合支庁水産課 機関士

事務局 8名

出席計32名